

PRESIDENT'S MESSAGE

RI 会長メッセージ

RI 指定記事

行動が私たちを定義する

1月に開催された国際協議会で、オンラインカ“インカ”ハキーム・ババロラ RI 会長エレクトは、ロータリー会員に向けて次のようなメッセージを発信しました。「Create Lasting Impact（持続可能なインパクトを生み出そう）」。

2月は平和構築と紛争予防月間です。今こそインカ会長エレクトの呼びかけを真の変化へとつなげる絶好の機会です。

平和とは、単に戦争がない状態を指すものではありません。紛争がなくても、飢餓や不安定な生活に苦しみ、家族を支えることができない日々は、真の平和とは言えません。平和には、自由と機会、そして人間の尊厳を尊重する敬意が欠かせません。しかし、変化への恐れ、文化的損失への不安、自分たちが理解できない人々に対する恐怖が、その道を阻むことがあります。

恐れは、無視や攻撃によって克服できるものではありません。平和への第一歩は「知ること」です。ロータリーはこの考え方を大切にしています。ロータリー平和センターや平和フェロー、そしてさまざまな平和教育の取り組みは、知識が信頼を育み、地域社会が紛争解決の道を見いだす力となることを示しています。

例えば数十年に及ぶ紛争が深い傷痕を残してきたコロンビアでは、2025年大規模プログラム補助金受領プログラム「コロンビアにおける平和と繁栄への道」が、世界食糧計画（WFP）と連携し、機会の拡大、紛争解決、人々と社会サービスをつなぐ活動に取り組んでいます。暴力、貧困、食糧不安の連鎖を断ち切り、平和を根付かせることを目指しています。

インド・マハラシュトラ州では、「世界を変える行動人」に選ばれたスワティ・ヘルカルさんが、土壌の劣化、農家の負債増加、化学肥料による健康被害といった課題に向き

合いました。彼女はロータリーのパートナーと共に再生農業プログラムを立ち上げ、土地を再生し、コストを削減し、暮らしの安定を実現。現在では1,100人以上の農家が参加し、50以上の村がこのモデルを採用しています。

さらにアフリカ中部のチャドでは、ロータリー平和フェローのドミノ・フランクさんが、反乱に参加した1,500人以上の女性が社会復帰プログラムから排除されている現状を知りました。彼の働きかけにより、チャド初のグローバル補助金の実現し、「平和の回廊」プロジェクトが始動しました。目標の3倍に当たる100人以上の女性が識字教育と職業訓練を修了し、協同組合を結成、家族を支えられるようになりました。

コロンビア、インド、チャドの事例が示す教訓は明確です。平和は夢ではなく、継続的な行動の結果であるということです。そしてそれが真の「持続可能なインパクト」を生み出すのです。これらの成功を他の地域で再現するために、ロータリークラブは三つの行動を取りましょう。平和フェローや組織内の平和の専門家から学ぶ、地域ニーズ調査に平和構築の視点を取り入れる、そして形式よりもインパクトを優先する、です。

恐れがまん延する世界において、ロータリーは中途半端な対応やうわべだけの言葉で満足してはいけません。私たちが真に「行動人」であるなら、その名の通り、行動こそが私たちを定義するべきです。共に、世界で、地域社会で、そして私たち自身の中に、「持続可能なインパクト」を生み出していきましょう。

フランチェスコ・アレツツォ

2025-26年度 国際ロータリー（RI）会長